

戦評用紙 2

大会名	第 21 回ヒロシマ国際ハンドボール大会
期日	2016 年 7 月 23 日
会場	広島市東区スポーツセンター
開始時刻	15 : 00
種別	男子
対戦チーム	日本代表対湧永製薬

戦評

この試合は湧永製薬のスローオフから始まった。日本代表はお互いを鼓舞するように声を出し、会場の雰囲気を作る。オープニングゴールは湧永製薬 9 番佐藤のステップシュート。湧永製薬がいい流れを作ろうとするも、日本代表は運動量豊富なディフェンスで簡単にはシュートを打たせない。また、丁寧なディフェンスの後、着実に得点を重ね前半 15 分に 7 - 12 とする。湧永製薬は、相手のミスを見逃さず、素早い攻防の切り替えで前半 20 分には 8 - 10 と点差を詰める。前半終了間際には、前半は 16 - 19、日本代表の 3 点リードで折り返した。

後半序盤、一進一退の展開となるが、後半の 10 分まで 20 - 23 と日本代表は 3 点差のリードを保つ。日本代表はポストを軸とした攻撃を展開し、後半 20 分には 22 - 27 と 5 点差まで広げる。後半終了間際、湧永製薬は 7 人攻撃にチャレンジし得点するも、最後まで点差を詰められず、27 - 32 日本代表の勝利で試合を終了した。

広島県立賀茂高等学校ハンドボール部副顧問 佐々木 俊介